



横浜市立大学附属病院

平成 24 年度 救急研修 評価表

研修施設名

研修医名

研修期間

平成 年 月 日～ 月 日

評価者名

E P O C 評価項目一覧

研修の評価

I. 行動目標 (3段階評価)

- | | |
|------------|-----------|
| 1. 患者－医師関係 | 4. 安全管理 |
| 2. チーム医療 | 5. 症例呈示 |
| 3. 問題対応能力 | 6. 医療の社会性 |

II. 経験目標

A) 経験すべき診察法・検査・手技 (3段階評価)

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1. 医療面接 | (3項目) |
| 2. 基本的な身体診察法 | (9項目) |
| 3. 基本的な臨床検査 | (20項目、うち必修15項目) |
| 4. 基本的手技 | (20項目、うち必修18項目) |
| 5. 基本的治療法 | (4項目) |
| 6. 医療記録 | (5項目、すべて必修、レポート1項目) |
| 7. 診療計画 | (4項目) |

B) 経験すべき症状・病態・疾患 (2段階評価；経験あり、なし)

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 頻度の高い症状 | (35項目、うち必修20項目、レポート20項目) |
| 2. 緊急を要する症状・病態 | (17項目、うち必修11項目) |
| 3. 経験が求められる疾患・病態 | (88項目、目標62項目以上) |

A = 入院患者を受け持ち、診断、検査、治療方針について症例レポートを提出 (10項目)

B = 外来診療または受け持ち入院患者 (合併症を含む) で自ら経験する (38項目)

外科症例レポート提出 (1症例)

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| (1) 血液・造血器・リンパ網内系疾患 (4) | (10) 内分泌・栄養・代謝系疾患 (6) |
| (2) 神経系疾患 (5) | (11) 眼・視覚系疾患 (5) |
| (3) 皮膚系疾患 (4) | (12) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患 (5) |
| (4) 運動器 (筋骨格) 系疾患 (4) | (13) 精神・神経系疾患 (7) |
| (5) 循環器系疾患 (8) | (14) 感染症 (6) |
| (6) 呼吸器系疾患 (7) | (15) 免疫・アレルギー疾患 (3) |
| (7) 消化器系疾患 (6) | (16) 物理・化学的因子による疾患 (4) |
| (8) 腎・尿路系 (体液・電解質バランスを含む) 疾患 | (17) 小児疾患 (5) |
| (9) 妊娠分娩と生殖器疾患 (3) | (18) 加齢と老化 (2) |

C) 特定の医療現場の経験 (3段階評価)

- 救急医療の場において (7)
- 予防医療の場において (4)
- 地域保健・医療の場において (4)
- 周産・小児・成育医療の場において (4)
- 精神保健・医療の場において (3)
- 緩和・終末期医療の場において (4)

指導の評価 (4段階)

- | | |
|--|--------------------|
| 1) 医療面接・基本手技の指導 | 6) 安全管理の指導 |
| 2) 考え方の指導 | 7) 患者・家族に対する態度の指導 |
| 3) 研修意欲の高め方 (*やる気を出させた、自分の指導に責任を持ったなど) | |
| 4) 研修医の状況への配慮 | 8) コメディカルに対する態度の指導 |
| 5) 指導を受けた医療の水準 (*診断・治療の水準) | 9) 総合評価 |
| | 10) free comment |

研修環境評価 (診療科毎4段階)

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1) 休暇・休養 (福利厚生) | 7) 研修期間 |
| 2) 経験症例数 | 8) 症例検討会、講習会などの教育システム |
| 3) 経験症例の種類 | 9) 研修医間の連携 |
| 4) 経験手技・検査の数 | 10) 指導医間の連携 |
| 5) 経験手技・検査の種類 | 11) コメディカルからの支援 |
| 6) 研修の時期 | |

プログラム全体の評価 (4段階)

- 新たに臨床研修を受ける人に対してあなたはこのプログラムでの研修を勧めますか。
- free comment

I.行動目標(3段階評価)

1. 患者－医師関係

	よくできる	できる	要努力
1) 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。			
2) 医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる。			
3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。			

2. チーム医療

	よくできる	できる	要努力
1) 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。			
2) 上級及び同僚医師や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。			
3) 同僚及び後輩へ教育的配慮ができる。			
4) 患者の転入・転出に当たり、情報を交換できる。			
5) 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。			

3. 問題対応能力

	よくできる	できる	要努力
1) 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる (EBM = Evidence Based Medicineの実践ができる)。			
2) 自己評価及び第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる。			
3) 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。			
4) 自己管理能力を身に付け、生涯にわたり基本的臨床能力の向上に努める。			

4. 安全管理

	よくできる	できる	要努力
1) 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。			
2) 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。			
3) 院内感染対策 (Standard Precautionsを含む) を理解し、実施できる。			

5. 症例呈示

	よくできる	できる	要努力
1) 症例呈示と討論ができる。			
2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する。			

6. 医療の社会性

	よくできる	できる	要努力
1) 保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。			
2) 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。			
3) 医の倫理・生命倫理について理解し、適切に行動できる。			
4) 医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。			

II. 経験目標項目 > A) 経験すべき診察法・検査・手技

1. 医療面接	よくできる	できる	要努力
1) 医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。			
2) 患者の病歴(主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー)の聴取と記録ができる。			
3) 患者・家族への適切な指示、指導ができる。			
2. 基本的な身体診察法	よくできる	できる	要努力
1) 全身の観察(バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む)ができ、記載できる。			
2) 頭頸部の診察(眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔、口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む)ができ、記載できる。			
3) 胸部の診察(乳房の診察を含む)ができ、記載できる。			
4) 腹部の診察(直腸診を含む)ができ、記載できる。			
5) 泌尿・生殖器の診察(産婦人科的診察を含む)ができ、記載できる。			
6) 骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる。			
7) 神経学的診察ができ、記載できる。			
8) 小児の診察(生理的所見と病的所見の鑑別を含む)ができ、記載できる。			
9) 精神面の診察ができ、記載できる。			
3. 基本的な臨床検査 ※ は必修項目	よくできる	できる	要努力
1) 一般尿検査(尿沈渣顕微鏡検査を含む) ※			
2) 便検査(潜血、虫卵) ※			
3) 血算・白血球分画 ※			
4) 血液型判定・交差適合試験 (A) ※			
5) 心電図(12誘導) (A) ※ 負荷心電図			
6) 動脈血ガス分析 (A) ※			
7) 血液生化学的検査 ※ ・簡易検査(血糖、電解質、尿素窒素 など)			
8) 血液免疫血清学的検査 ※ (免疫細胞検査、アレルギー検査を含む)			
9) 細菌学的検査・薬剤感受性検査 ※ ・検体の採取(痰、尿、血液など) ・簡単な細菌学的検査(グラム染色など)			
10) 肺機能検査 ※・スパイロメトリー			
11) 髄液検査 ※			
12) 細胞診・病理組織検査			
13) 内視鏡検査 ※			
14) 超音波検査 (A) ※			
15) 単純X線検査 ※			
16) 造影X線検査			
17) X線CT検査 ※			
18) MRI検査			
19) 核医学検査			
20) 神経生理学的検査(脳波・筋電図など)			

4. 基本的手技 ※ は必修項目	よくできる	できる	要努力
1) 気道確保を実施できる。※			
2) 人工呼吸を実施できる。(バックマスクによる徒手換気を含む) ※			
3) 心マッサージを実施できる。※			
4) 圧迫止血法を実施できる。※			
5) 包帯法を実施できる。※			
6) 注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保)を実施できる。※			
7) 採血法(静脈血、動脈血)を実施できる。※			
8) 穿刺法(腰椎)を実施できる。※			
9) 穿刺法(胸腔、腹腔)を実施できる。			
10) 導尿法を実施できる。※			
11) ドレーン・チューブ類の管理ができる。※			
12) 胃管の挿入と管理ができる。※			
13) 局所麻酔法を実施できる。※			
14) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。※			
15) 簡単な切開・排膿を実施できる。※			
16) 皮膚縫合法を実施できる。※			
17) 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。※			
18) 気管挿管を実施できる。※			
19) 除細動を実施できる。※			

5. 基本的治療法	よくできる	できる	要努力
1) 療養指導(安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む)ができる。			
2) 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療ができる。			
3) 基本的な輸液ができる。			
4) 輸血(成分輸血を含む)による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる。			

6. 医療記録 ※ は必修項目	よくできる	できる	要努力
1) 診療録(退院時サマリーを含む)をPOS (Problem Oriented System) に従って記載し管理できる。※			
2) 処方箋、指示箋を作成し、管理できる。※			
3) 診断書、死亡診断書、死体検案書、その他の証明書を作成し、管理できる。※			
4) CPC(臨床病理検討会)レポート(剖検報告)を作成し、症例呈示できる。※			
5) 紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。※			

7. 診療計画	よくできる	できる	要努力
1) 診療計画(診断、治療、患者・家族への説明を含む)を作成できる。			
2) 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。			
3) 入退院の適応を判断できる。(デイスージャーリー症例を含む)			
4) QOL (Quality of Life) を考慮にいれた総合的な管理計画へ参画する。			

II. 経験目標項目 > B) 経験すべき症状・病態・疾患

1. 頻度の高い症状

※は必修項目	経験した	していない
1) 全身倦怠感		
2) 不眠 ※		
3) 食欲不振		
4) 体重減少、体重増加		
5) 浮腫 ※		
6) リンパ節腫脹 ※		
7) 発疹 ※		
8) 黄疸		
9) 発熱 ※		
10) 頭痛 ※		
11) めまい ※		
12) 失神		
13) けいれん発作		
14) 視力障害、視野狭窄 ※		
15) 結膜の充血 ※		
16) 聴覚障害		
17) 鼻出血		
18) 嘔声		
19) 胸痛 ※		
20) 動悸 ※		
21) 呼吸困難 ※		
22) 咳・痰 ※		
23) 嘔気・嘔吐 ※		
24) 胸やけ		
25) 嚥下困難		
26) 腹痛 ※		
27) 便通異常(下痢、便秘) ※		
28) 腰痛 ※		
29) 関節痛		
30) 歩行障害		
31) 四肢のしびれ ※		
32) 血尿 ※		
33) 排尿障害(尿失禁・排尿困難) ※		
34) 尿量異常		
35) 不安・抑うつ		

2. 緊急を要する症状・病態

※は必修項目	経験した	していない
1) 心肺停止 ※		
2) ショック ※		
3) 意識障害 ※		
4) 脳血管障害 ※		
5) 急性呼吸不全		
6) 急性心不全 ※		
7) 急性冠症候群 ※		
8) 急性腹症 ※		
9) 急性消化管出血 ※		
10) 急性腎不全		
11) 流・早産および満期産		
12) 急性感染症		
13) 外傷 ※		
14) 急性中毒 ※		
15) 誤飲、誤嚥		
16) 熱傷 ※		
17) 精神科領域の救急		

II. 経験目標項目 > B) 経験すべき症状・病態・疾患

3. 経験が求められる疾患・病態

(1) 血液・造血器・リンパ網内系疾患

- [1] 貧血(鉄欠乏貧血、二次性貧血) (B)
- [2] 白血病
- [3] 悪性リンパ腫
- [4] 出血傾向・紫斑病(播種性血管内凝固症候群:DIC)

経験した	していない

(2) 神経系疾患

- [1] 脳・脊髄血管障害(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血) (A)
- [2] 痴呆性疾患
- [3] 脳・脊髄外傷(頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫)
- [4] 変性疾患(パーキンソン病)
- [5] 脳炎・髄膜炎

(3) 皮膚系疾患

- [1] 湿疹・皮膚炎群(接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎) (B)
- [2] 蕁麻疹 (B)
- [3] 薬疹
- [4] 皮膚感染症 (B)

(4) 運動器(筋骨格)系疾患

- [1] 骨折 (B)
- [2] 関節・靱帯の損傷及び障害 (B)
- [3] 骨粗鬆症 (B)
- [4] 脊柱障害(腰椎椎間板ヘルニア) (B)

(5) 循環器系疾患

- [1] 心不全 (A)
- [2] 狭心症、心筋梗塞 (B)
- [3] 心筋症
- [4] 不整脈(主要な頻脈性、徐脈性不整脈) (B)
- [5] 弁膜症(僧帽弁膜症、大動脈弁膜症)
- [6] 動脈疾患(動脈硬化症、大動脈瘤) (B)
- [7] 静脈・リンパ管疾患
- [8] 高血圧症(本態性、二次性高血圧症) (A)

(6) 呼吸器系疾患

- [1] 呼吸不全 (B)
- [2] 呼吸器感染症(急性上気道炎、気管支炎、肺炎) (A)
- [3] 閉塞性・拘束性肺疾患(気管支喘息、気管支拡張症) (B)
- [4] 肺循環障害(肺塞栓・肺梗塞)
- [5] 異常呼吸(過換気症候群)
- [6] 胸膜・縦隔・横隔膜疾患(自然気胸、胸膜炎)
- [7] 肺癌

(7) 消化器系疾患

- [1] 食道・胃・十二指腸疾患 (A)
- [2] 小腸・大腸疾患(イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻) (B)
- [3] 胆嚢・胆管疾患(胆石、胆嚢炎、胆管炎)
- [4] 肝疾患 (B)
- [5] 膵臓疾患(急性・慢性膵炎)
- [6] 横隔膜・腹壁・腹膜(腹膜炎、急性腹症、ヘルニア) (B)

(8) 腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)疾患

- [1] 腎不全(急性・慢性腎不全、透析) (A)
- [2] 原発性糸球体疾患
- [3] 全身性疾患による腎障害(糖尿病性腎症)
- [4] 泌尿器科の腎・尿路疾患(尿路結石、尿路感染症) (B)

(9)妊娠分娩と生殖器疾患

- [1]妊娠分娩 (B)
- [2]女性生殖器及びその関連疾患
- [3]男性生殖器疾患(前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍) (B)

経験した	していない

(10)内分泌・栄養・代謝系疾患

- [1]視床下部・下垂体疾患(下垂体機能障害)
- [2]甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症)
- [3]副腎不全
- [4]糖代謝異常(糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖) (A)
- [5]高脂血症 (B)
- [6]蛋白および核酸代謝異常(高尿酸血症)

(11)眼・視覚系疾患

- [1]屈折異常(近視、遠視、乱視) (B)
- [2]角結膜炎 (B)
- [3]白内障 (B)
- [4]緑内障 (B)
- [5]糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化

(12)耳鼻・咽喉・口腔系疾患

- [1]中耳炎 (B)
- [2]急性・慢性副鼻腔炎
- [3]アレルギー性鼻炎 (B)
- [4]扁桃の急性・慢性炎症性疾患
- [5]外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的な異物

(13)精神・神経系疾患

- [1]症状精神病
- [2]痴呆(血管性痴呆を含む) (A)
- [3]アルコール依存症
- [4]気分障害(うつ病、躁うつ病を含む) (A)
- [5]統合失調症(精神分裂病) (A)
- [6]不安障害(パニック症候群)
- [7]身体表現性障害、ストレス関連障害 (B)

(14)感染症

- [1]ウイルス感染症(B)
- [2]細菌感染症(B)
- [3]結核 (B)
- [4]真菌感染症(カンジダ症)
- [5]性感染症
- [6]寄生虫疾患

(15)免疫・アレルギー疾患

- [1]全身性エリテマトーデスとその合併症
- [2]慢性関節リウマチ (B)
- [3]アレルギー疾患 (B)

(16)物理・化学的因子による疾患

- [1]中毒(アルコール、薬物)
- [2]アナフィラキシー
- [3]環境要因による疾患(熱中症、寒冷による障害)
- [4]熱傷 (B)

(17)小児疾患

- [1]小児けいれん性疾患 (B)
- [2]小児ウイルス感染症 (B)
- [3]小児細菌感染症
- [4]小児喘息 (B)
- [5]先天性心疾患

(18)加齢と老化

- [1]高齢者の栄養摂取障害 (B)
- [2]老年症候群(誤嚥、転倒、失禁、褥瘡) (B)

II. 経験目標項目＞C) 特定の医療現場の経験

1. 救急医療の場において

	よくできる	できる	要努力	未経験
1) バイタルサインの把握ができる。				
2) 重症度および緊急度の把握ができる。				
3) ショックの診断と治療ができる。				
4) 二次救命処置 ができ、一次救命処置(BLS)を指導できる。				
5) 頻度の高い救急疾患の初期治療ができる。				
6) 専門医への適切なコンサルテーションができる。				
7) 大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる。				

2. 予防医療の場において

	よくできる	できる	要努力	未経験
1) 食事・運動・休養・飲酒・禁煙指導とストレスマネジメントができる。				
2) 性感染症予防、家族計画を指導できる。				
3) 地域・産業・学校保健事業に参画できる。				
4) 予防接種を実施できる。				

3. 地域医療の場において

	よくできる	できる	要努力	未経験
1) 患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療(在宅医療を含む)について理解し、実践する。				
2) 診療所の役割(病診連携への理解を含む)について理解し、実践する。				
3) へき地・離島医療について理解し、実践する。				

4. 周産・小児・成育医療の場において

	よくできる	できる	要努力	未経験
1) 周産期や小児の各発達段階に応じて適切な医療が提供できる。				
2) 周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。				
3) 虐待について説明できる。				
4) 学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。				
5) 母子健康手帳を理解し活用できる。				

5. 精神保健・医療の場において

	よくできる	できる	要努力	未経験
1) 精神症状の捉え方の基本を身につける。				
2) 精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。				
3) デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。				

6. 緩和・終末期医療の場において

	よくできる	できる	要努力	未経験
1) 心理社会的側面への配慮ができる。				
2) 基本的な緩和ケア(WHO方式がん疼痛治療法を含む)ができる。				
3) 告知をめぐる諸問題への配慮ができる。				
4) 死生観・宗教観などへの配慮ができる。				
5) 臨終の立ちあい、適切に対応できる。				

7. 地域保健の場において

	よくできる	できる	要努力	未経験
1) 保健所の役割(地域保健・健康増進への理解を含む)について理解し、実践する。				
2) 社会福祉施設等の役割について理解し、実践する。				